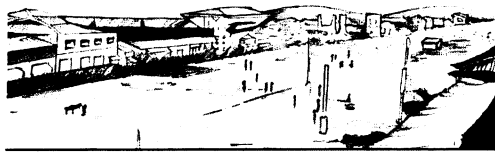


もう一度生まれたら、花に [第1回]

作・権テソン、翻訳・村山一兵

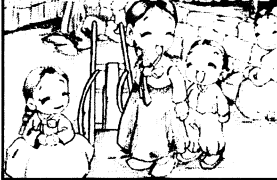
\*日帝支配下の1926年、プヨ\*



私は、主家の家庭の長女として生まれました。



経済的に豊かではなかったけれど、妹・弟と共に睦まじい家族でした。



ところが父が病気で床に伏せるようになり、家庭の事情は急に悪くなり。



誰かが仕事をしなければならぬようになりました。



①

お前がすごく辛いんじゃない...?



大丈夫です。私は長女ですもの...

その時、私の年が14歳の時でした。



日本軍の軍服を作る工場。工場の仕事は、大変だけれど...

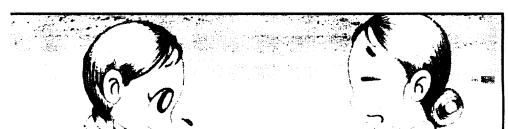


③



私が日本の工場へ行って、仕事をします。

そこで3年だけ働けばお父さんの治療費くらいは十分に稼げるでしょう。



お父さんのためだから、他に方法はないけど...

②

作品介绍と作者プロフィール

「もう一度生まれたら、花に」は、韓国ナムムの家から送られてきた作品です。

権テソンさんは1974年生まれ。作品をウェブサイトで発表。この作品は作家の経験や事実を「鉛筆」で穏やかに描き出した「思い出」という掲示板に収録されています。

(<http://www.overknown.com>)

著書に『思い出鉛筆』(華南出版社、2004年)、『論説文話の種 100 通り』1,2 (創作木、2004年)。

現在は小学校教師として、小学生たちに科学を教える事と共に多くの多様な漫画を描いています。

\*ナムムの家

1992年に設立された日本軍「慰安婦」歴史館。村山一兵さんはナムムを家の歴史研究員。

次号へ続く